



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Boats Against the Current : A Philosophy of Time in F. Scott Fitzgerald's Works [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	松浦, 和宏
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第13410号
Issue Date	2019-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74464
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Kazuhiro_Matsuura_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称: 博士（文学） 氏名: 松浦 和宏

主査 教授 竹内 康浩
審査委員 副査 教授 瀬名波 栄潤
副査 教授 野村 益寛

学位論文題名

Boats Against the Current:

A Philosophy of Time in F. Scott Fitzgerald's Works

(流れる時間を取り戻すために: F. Scott Fitzgerald作品における時間論)

・当該研究領域における本論文の研究成果

いわゆるロストジェネレーションの世代を代表するアメリカ人作家F. スコット・フィッツジェラルドの作品に、時間あるいは過去という主題を読んでいくという本論文の中心的な議論は、この領域を研究する者にとってはオーソドックスなアプローチであり、また、作家の伝記的事実を参照しながら議論をすすめていく手法は、伝統的な手法といえる。換言すれば、本論文は、当該研究領域において最も重要な問題を、正面から奇をてらわずに考察することを企図したものであり、既存の研究の精度をさらに高める試みとして評価することができる。また、本論文はフィッツジェラルドの短編群に共通して描かれている時間の主題を丹念に読み込むことで、研究範囲の拡大を図った点においてもその成果を認められる。さらに、そのような短編群の読解を基礎に、最終的にはその代表的な作品*The Great Gatsby*を多角的に分析するという試みは着実なものであり、主人公の悲劇を時間の観点から必然的なものと見なす分析は十分な説得力を持つといえる。なかでもとりわけ、主人公の企図の本質が、実は自己を再創造するために実父を否定すること、すなわち、一種の父殺しであると見なし、そのような過去の罪が主人公の現在を危ういものにしている原因であるとする議論は斬新であり、本論文の最も重要な論考といえる。その点でも、作家の主要作品に対する研究に新しい視点をもたらす貢献をなすものであると評価してよいであろう。

なお本論文は、国内の査読付き学術研究誌に発表された3本の論文の内容を含むものである。

・学位授与に関する委員会の所見

審査委員会はこれらの成果を評価する一方で、本論文のもつ問題点も審査委員から指摘され

た。本論は所々でフロイトの理論に言及することがあり、それは文学研究において特に珍しいことではないのだが、しかし、その理論の援用に当たって、十分に厳密な研究がなされたとはいえない。この点で、本論文には分析の精緻さを向上させる余地が残っているであろう。また、本論文が検討している作品の選択にも多少の偏りがあることは否めない。例えば、フィッツジェラルドの代表作である *The Great Gatsby* を考察するに際し比較検討する作品を短編 “Winter Dreams” だけでなく、描かれた時代やプロットを考慮するならば、元々は *The Great Gatsby* の一部分になるはずでありながらも単独の作品として発表された “Absolution” という短編にまで広げるべきであったであろう。さらに、短編作品を読み込むことで長編作品の深い理解に達するという企図が本論文にはあるのだが、フィッツジェラルド作品を包括する時間論を解明するのであれば、より網羅的に考察し、議論する余地があるのではないか、という不満も残った。

審査委員会は、口頭試問においてこれらの問題を指摘し、それらが本論文の企図したものの大きさ、すなわちフィッツジェラルドの時間観という非常に大きな問題に取り組んだことから生じざるをえないものであったことを確認し、さらに申請者がこれらの問題を克服し、より高度な議論へと改善してゆくことが可能であると考えた。以上の審査状況に基づき、本審査委員会は全員一致で松浦和宏氏に博士(文学)の学位を授与することが妥当であるとの結論に達した。